

造成ヨシ帯における漁場生産力の把握

上野 世司・上垣 雅史・寺井 章人・西森 克浩

1. 目的

琵琶湖の周辺に存在するヨシ帯は、その多くが開発行為等により消失し魚類繁殖場としてあるべき場所が失われた。そこで、新たに造成されたヨシ群落の造成地区を対象に漁場としての生産能力を調査した。

2. 方法

長浜市湖北町海老江地先（丁野木漁場）の造成ヨシ群落内において平成 23 年 4 月 6 日から 6 月 22 日までの間、週 1 回の頻度で計 11 回にわたり、塩ビパイプ枠（50cm×50cm）にキンランを取り付けた産卵基体を 6 箇所設置し、コイ・フナ類の産卵状況を調査した（図 1）。

草津市下笠地先（下笠地区）の造成ヨシ群落内において平成 23 年 4 月 5 日から 6 月 21 日までの間、週 1 回の頻度で計 11 回にわたり、産卵基体を 6 箇所設置し、コイ・フナ類の産卵状況を調査した。



図 1 丁野木漁場造成ヨシ帯における調査基点。

卵数から当該造成ヨシ群落（4.0ha）の総産着卵数は約 41.8 億粒と推定された。

産着卵が認められたのは 4 月 5 日から 6 月 7 日までの間の 8 回であった（図 3）。産着卵数から当該造成ヨシ群落（2.5ha）の総産着卵数は約 22.0 億粒と推定された。

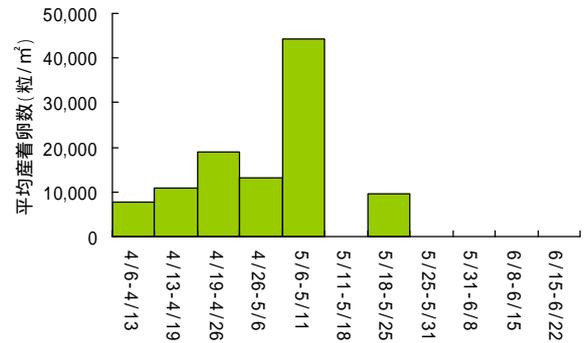


図 2 丁野木漁場造成ヨシ帯におけるコイ・フナ類の産着卵数の推移。

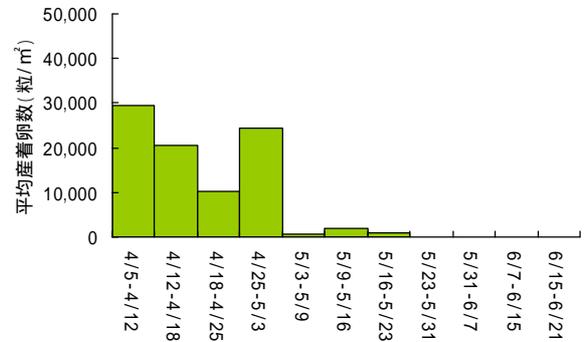


図 3 下笠造成ヨシ帯におけるコイ・フナ類の産着卵数の推移。

3. 結果

産着卵が認められたのは 4 月 6 日から 5 月 25 日までの間の 6 回であった（図 2）。産着